老朽原発うごかすな！ニュース

第９５号

発行・老朽原発うごかすな！実行委員会

［連絡先］
090-1965-7102

リレーデモ第8日目に参加して
災禍が永く続く福島を想いながら

琵琶湖東側の長浜は、城下町、北國街道や水運の要塞として発達した歴史を感じさせた。１０時半に長浜駅前を出発。町の中の大通り、交通量の多い県道８号線など約４kmをデモ行進した。手を振り返してくれるのはバスや車内の女性たち。自転車の後ろの子どもや中学生たちも笑顔を見せてくれる。「沿道の市民の皆様、私たちは老朽原発の危険を訴え再稼働を阻止するために、大阪の関電本店から若狭高浜原発までの２３０kmをリレーデモしています。」拡声器や街宣車からの訴えに耳傾けている店内の人々の姿が見える。デモというのは、何が問題なのかを可視化して、気付きを広める。何もなければ、何も考えずに今日を過ごすだろう。ゲンパツ？　心の奥の微かなものが揺れますように。「放射能で琵琶湖を汚すな」「事故が起これば避難は不可能」シュプレヒコールの声をあげながら、前方に大きく聳える伊吹山の端麗な姿を見上げながら、共感の輪と行動が起こることを願い歩いた。

伊吹山に向かって（３月３０日）

午後からは北上して木ノ本駅の周辺をチラシ撒きのアメーバデモをした。湖北地方の街道筋の面影を残す落着いた佇まいの町だ。４班に分かれて広範囲にポスティングをした。大きな杉玉が下がっているガラス戸の店。醤油の店も多い。郵便受けが見つからない長い板塀の町家もあった。

人けのない細い裏通りに１軒の床屋があった。辺りには住人のいない廃屋がいくつかあって、ふと、その風景が最近３・１１に訪れた福島県大熊町の１軒だけ営業してる床屋と重なった。近くの溜池は高線量のヘドロ汲出し工事中で、道端に顔を出していたフキノトウの地面に線量計を置くと、４μSv／hもあった。一度原発事故を起こせば災禍は永く続く。もし、若狭の原発が過酷事故を起こせば、この辺りも琵琶湖も激しい放射能汚染に晒されるだろう。桜舞う中、震える思いで立ちすくんだ。駅前の小さな食料品店の女性たちも、原発は心配だと話していた。東京からの日帰り参加だったが多くのことを学べた１日だった。

（再稼働阻止全国ネットワーク　青山春江）

リレーデモ ＩＮ 長浜 ＆ 木ノ本
街宣・チラシ配布 に参加して

３月３０日の滋賀　長浜・木ノ本のリレーデモ企画をニュースやチラシで知り、関電本店前から高浜原発までデモで繋ぐ企画をされた実行委員会に敬意を払いながら、何とか参加したいとスケジュールを調整しながらこの日を楽しみにしていました。

滋賀は、私の故郷でもあり、同じく、滋賀出身の先輩である国労出身で市民運動の仲間Ｆさんを誘い、二人で参加。保守王国地域の湖北に、少しでも風穴が開けられたらとの思いでした。

関が原で高速を降り、長浜駅に着いたのは開始１５分前。既に多くの警官も待機しており、赤旗、幟等立て準備中の関西一円からの参加者に合流。

リレーデモ出発（３０日、先頭の左が青山さん、右が武藤さん）

裁判所で何回かお会いした事が有る木原さんを含め多くの仲間に、紹介して頂きながら名古屋から来たことを報告あいさつした。

岸田政権が、福島事故が終ったかの如く、今までの政策（原発再稼動を考えず、自然再生エネを拡大）を一転させ、制限なし・新規開発・原発再稼動を言い出し、汚染水を海に流すための予算枠の増加、再稼動・新規予算まで計上するなど大きな危機感を感じている。

私は先頭で横断幕を抱えさせて頂き、２５名の参加で整然と約４km、２時間かけての市中デモ。１２年経った今も３万人を超える人が避難している事、全国３０カ所で訴訟が続いている事、甲状腺がんで福島の３１８人以上の人が人生への不安、悔しさを抱えている事などなど福島原発事故は、終わってなどいない事を湖北の皆さんに、改めて知って頂くとともに反原発行動への参加を呼びかけました。

車や、家の中から出てこられた市民に、手を振りながらアピールし、春休みの中高生からも老人からも手を振ってもらい、手ごたえと嬉しさも感じ取れました。

木ノ本でも、３グループに分かれ１人１００枚のチラシを丁寧に１軒ごとに配布し、１０００枚以上が配布された。手渡すと「ご苦労様です。頑張って。」との言葉に、約２時間の行動の疲れも吹き飛ぶ。仲間から元気をいただき心地よい帰宅となりました。ご参加の皆さん、有難うございました。

（４０年老朽原発廃炉訴訟市民の会　武藤）

リレーデモ、11日間、延べ900人が参加
シュプレヒコールとうちわ太鼓が鳴り響く

３月２１日、関電包囲大集会を大阪中之島関西電力（関電）本店前開催。集会終了後のデモから、４月２日、福井県の高浜原発まで、１１日間延べ人数９００人がリレーデモに参加した。

運転開始後４８年、４７年を超えた老朽原発、高浜１、２号機、４６年を超えた美浜３号機の廃炉を訴えながら、また、岸田政権の原発推進政策に抗議しながら、沿道の人達に、「目に見え・耳に聞こえる」行動のリレーデモ。各々が５ｍの「反原発」の赤い旗や「老朽原発うごかすな」の幟を持ち、原発反対を訴えながら歩く。「ご町内の皆さま、私たちは大阪関電本店から、京都、琵琶湖の東を経由して高浜原発まで２３０kmのリレーデモを行なっています。」それを聞いた沿道で手を振る人に会釈をしながらデモは進む。

井戸謙一弁護士

一方、街宣車は「原発のない明日を」「岸田政権の原発推進反対」「老朽原発うごかすな」のハチマキを付け、反原発の録音を流しながら町中を走る。

平尾道雄米原市長

デモ隊には韓国から来た若者達、日本山妙法寺の僧侶の参加もあり、「老朽原発うごかすな」「事故がおきれば避難は不可能」のシュプレヒコールとうちわ太鼓が鳴り響く。

彦根市では井戸謙一弁護士より、市民運動の力が裁判を押し上げる。今の原発推進に対しリレーデモの行動が期待されると激励を受け、ご家族とともにデモ隊が見えなくなるまで見送ってくださった。米原市では平尾道雄市長から挨拶を受けた。市民を被曝から守るのが首長の責任とし反原発を政府に宣言されている。国策だからと原発再稼働に同意をする原発立地の首長に聞かせたい発言だ。

また、リレーデモが通過する１３自治体と関西電力への申し入れを行なった。

満開の桜や菜の花、緑の麦畑を見ながら、沿道、窓、車から手を振る人、玄関から道路に出て会釈する人、お店から出てきた観光客に拍手で迎えられるなど、反原発は民意だと実感する。茨木では、公園で遊んでいた子どもたちがKさんを取り囲み、「福島で原発事故が起きたんやろ」と言いながら「友達にチラシ渡すから」と受け取る場面もあり、未来への希望を見た瞬間だった。

（老朽原発うごかすな！実行委員会　木戸惠子）

関西電力への申し入れ（４月２日、高浜原発前）